



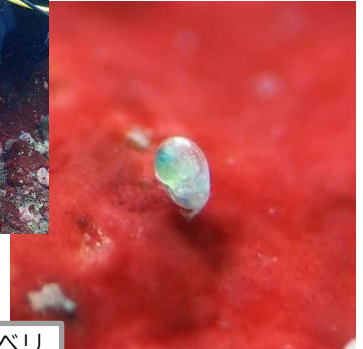
## アワビ幼生の放流実験を実施

減少したアワビ資源を回復させるため、現在稚貝の放流が行われています。今まで行ってきた稚貝の代わりに幼生を放流した場合、海の中で生き残るのかを確認するため、アワビ幼生の放流実験を実施しました。放流した場所の石を採取し、石の表面にアワビ稚貝が着底しているのか顕微鏡で観察した結果、稚貝として着底したことが確認できました。



着底した稚貝→

←幼生放流の様子



【解説】アワビの幼生：アワビは卵からふ化した後、トロコフォア幼生とそれに続くベリジャー幼生と呼ばれる幼生となり、浮遊生活を4～7日送った後、海底に着底し、稚貝となる。

## 稲取高校でのキンメダイ講座

10月29日に県立稲取高校で「稲取キンメ鯛の生態、栄養」と題して、キンメダイの成長や新たにキンメダイに含まれていることがわかった機能性成分アンセリンなどについて講演しました。この講座は同校の食育推進事業の一環として行われ、フードデザインの2年生20名が受講しました。全国的に有名となった「稲取キンメ」の地元でもあり、生徒たちは皆、熱心に聴講していました。



### 【解説】キンメダイ

金色の大きな目、鮮やかな赤色が特徴。水深200～800mの海山等の海底付近にすむ。立縄釣りによる沿岸漁獲物を「地キンメ」、底立て延縄による伊豆諸島の沖合のものを「沖キンメ」と呼んでいる。伊豆では伊東、稲取、下田で水揚げされ、下田は全国一の水揚げを誇る。

## 磯焼け対策全国協議会で成果発表

11月27～28日に東京で開催された磯焼け対策全国協議会において、内浦湾で実施したガラモ場（ホンダワラ類の藻場）回復実証試験の成果を発表しました。内浦湾では近年ガラモ場が衰退しており、回復しない要因としてウニの1種であるガンガゼの食害の影響が大きいことが分かりました。ガンガゼの食害を軽減し、ホンダワラ類の幼胚（種）を供給することで、1ha規模の藻場を作ることができました。



### 【解説】磯焼け

藻場が消滅し、藻場に依存して生活する有用な魚介類が減少してしまい、漁業生産が著しく低下する現象

- 12月の予定**
- ・西伊豆仁科浜地区で水揚げされるヤリイカの活魚輸送試験を引き続き行います。
  - ・アワビ幼生を放流した後の定着状況の調査を行います。
  - ・メタン発酵液を利用したスジアオノリの適正な培養条件を検討しています。
  - ・当場のイセエビ研究の成果を中央ブロック水産業関係研究開発推進会議資源生態部会で発表します。

**会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。**

連絡先：静岡県水産技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜 251-1 電話 0558-22-0835  
アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu